



夏休み子ども映画会のご案内

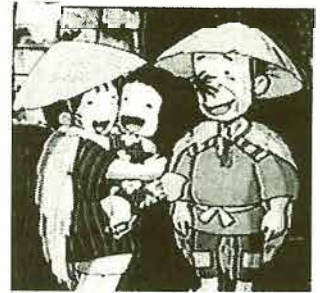
“いじめ”をなくし、相手を思いやる心を育むために



国連NGO横浜国際人権センター山梨ランチ（全日本同和会山梨県連合会）では甲府市と連携して、子どもたちに豊かな人権感覚を育む一助とするため、次により「夏休み子ども映画会」を開催します。

いじめや差別は、ときとして相手の命にもかかわる犯罪行為です。

大人が子ども達に対して「いじめ・差別はよくない」とか「相手の気持ちを思いやるように」といったことを、口でいうだけでなく、日々の行動（無言の教え）で示せるかどうかが大切だと思います。これらの映画は親と子が共に人権の尊さについて話しあえる教材として制作されました。



(赤まんまの唄)

(元のDVDは横浜国際人権センター山梨ランチ（下記）にありますので、貸し出すことも出来ます。)

日 時	上映場所	内 容
7月28日(土)	甲府市城東1-12-33 甲府市立図書館	「ハヤト君の瀬戸大橋の旅」(実写・36分) (1回目) 10:30~11:06 (2回目) 13:30~14:06
9月1日(土)	甲府市青沼3-5-44 甲府市総合市民会館	「赤まんまの唄」(アニメ・27分) (1回目) 11:15~11:42 (2回目) 14:15~14:42

★映画のあらまし★

「人権マンガ日本昔話：赤まんまの唄」：アニメ映画

ある村に両親と娘「もん」が住んでいました。ある日母親は洪水に流され亡くなってしまいます。残された小さな娘「もん」はしばらくして高熱を出し、病の床で「赤まんまが食べたい」と、うなされながら父親に訴えます。たった一回だけの家族三人で食べた楽しい記憶が「もん」にはあったのです。貧しかった家にはお米もあずきもなかったため、庄屋の蔵の中に落ちている米粒を拾って、一握りの赤まんまを食べさせた父親。完治した「もん」はそれが嬉しくて、手まり唄で「赤まんまを食べた」と唄い、役人にそれを聞かれてしまいます。そして父親は洪水を治めるための、橋の支柱にされてしまいました。自分が余計なことを唄ったことが父親を死に追いやったため、誰とも口を開かなくなります。封建社会での権力者の非道さや冷酷さと農民の悲惨な生活。その中で育ってきた主人公「もん」は口を閉ざすしか抵抗の手段を見出せませんでした。その重圧と苦しさから立ち上り、仲間たちと協力して人間らしく生きていける村づくりに取り組む姿が映し出されています。

「ハヤト君の瀬戸大橋の旅」：実写映画

ついに夢の架け橋といわれた瀬戸大橋が完成し本州と四国が結ばれました。凡そ10キロの海峡に島伝いに架けられた6つの巨大橋である。東京に住むハヤト君は小学校6年生、瀬戸大橋の旅に出ます。アマチュア無線で知合った瀬戸大橋の近くに住むおじいちゃん（元小学校校長）をたずね、瀬戸大橋を見に行きました。長い年月をかけ完成した瀬戸大橋、今もこの工事に携わった人々の思いや願いを見る人に伝え、この橋のもつ意義や技術とは何かを考え、ハヤト君の疑問解決を中心にわかりやすく描いています。

〒400-0831 甲府市上町601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房1階事務室
国連NGO 横浜国際人権センター・山梨ランチ
(代表・横山 隆史 (全日本同和会山梨県連合会・会長)) (TEL・055-243-8563)